

病理病態検査学特論Ⅱ (Advance of Pathological AnalysisⅡ)

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 | |
|---------------------------------|--|------------------------------------|-----|------|------|---------------|---------|-----------|--|
| 山口央輝、澤田浩秀 | 1年次後期 | 選択 | 2 | 30 | 講義 | あり | 卷末掲載 | 可 | |
| 授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法 | 病理病態検査学特論Ⅱでは、認知症の現状、認知症疾患の概要、発症機構、認知症の臨床検査からその予防法について教授する。また、神経変性疾患全般およびその代表疾患としてパーキンソン病について発症機構、最新治療法などについて概説する。高齢化に伴い認知症患者が増え続ける現状において、認知症患者との接し方、および今後の認知症対策および予防について学修する。課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 | | | | | | | | |
| 授業の位置づけ | 本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。 | | | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の概要、発症機構、臨床検査法、予防について理解できる。 2. 神経変性疾患全般およびパーキンソン病の発症機構、最新治療法などについて理解できる。 3. 認知症患者との接し方、認知症への対策、予防についての見解が述べられる。 | | | | | | | | |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言 | <p>第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/分からない用語については調べておく (各30分)</p> <p>第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/毎回の講義の復習を十分行うこと。毎回の講義の復習を十分行うこと。(各30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p> | | | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 | 認知症の現状と政策 (講義) | | | | | 山口央輝 | | |
| | 第2回 | 認知症疾患の概要1 (講義) | | | | | 山口央輝 | | |
| | 第3回 | 認知症疾患の概要2 (講義) | | | | | 山口央輝 | | |
| | 第4回 | 認知症の発症機構1 (アルツハイマー病、前頭側頭型認知症) (講義) | | | | | 山口央輝 | | |
| | 第5回 | 認知症の発症機構2 (パーキンソン病) (講義) | | | | | 山口央輝 | | |
| | 第6回 | 認知症の臨床検査法1 (血液、脳脊髄液) (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第7回 | 認知症の臨床検査法2 (嗅覚、脳波、MRI) (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第8回 | 認知症の予防法 (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第9回 | 認知症患者との接し方 (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第10回 | 認知症患者との接し方に関する討議 (ゼミ) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第11回 | 神経変性疾患の発症機構と最新知見 (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第12回 | パーキンソン病の最新知見と最新治療法 (講義) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第13回 | 認知症の現状および予防に関する討議1 (ゼミ) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第14回 | 認知症の現状および予防に関する討議2 (ゼミ) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| | 第15回 | 認知症の現状および予防に関する討議3 (ゼミ) | | | | | 澤田浩秀 | | |
| 評価方法 評価基準 | レポート (60%)、プレゼンテーション (40%) で評価する。 | | | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない | | | 参考書等 | | 担当教員が資料を配布する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 認知症はこれからの社会において避けては通れません。在宅医療を考える上での知識として重要です。毎回の講義の復習を十分行ない、討議には積極的に参加することを求めます。 | | | | | | | | |